

2002年 新年のごあいさつ

横越町長 浅見 良一

明けましておめでとうござい
ます。皆さまのご多幸とご繁栄
を心からお祈り申し上げます。

はじめに

昨年は、明治34年11月1日に
「横越村」「沢海村」「木津村」
「二本木村」「小杉村」の5か村
が合併して100周年、平成8
年に「村」から「町」へ町制を
施行して5周年を迎え、11月1
日、これを祝う記念事業を開催
し、皆さまのおかげで無事執り
行うことができました。

今、100年前を振り返り、
当時の5か村の村長と議会、住
民の皆さんが、地域の将来の発
展と住民の幸せを願い、勇気あ



る決断により合併を実現し、幾
多の変遷を経て現在の横越町が
あることは、先人たちの英知と
たゆまざる努力、その時々にお
ける住民の皆さまのご支援、ご
協力によるものであります。

教育の振興

100年前、先人たちは「新
世紀に向かって教育の振興を図
らなければ、地域と住民の幸せ
はなく、財源確保も難しい」と
考えて合併した経緯があり、教
育に力を入れてきました。昨年
話題になりました長岡藩の「米
百俵」の話でも、教育の必要性
が唱えられています。町づくり
は、まさに人づくりとも言え、
教育・文化の振興こそ、未来を
創る礎であります。

町では、中学校の改築を今年
から着手し、来年度には完了す
る予定です。また、これからの
国際化に対応できる人材育成の
ため、外国青年による英語指導、
小中学生の海外研修を続けて参
ります。また、子どもセンター
を活用し、学校・家庭・地域・
行政が連携を図りながら、青年
の健全育成に取り組んで参り
ます。

福祉の充実

高齢化社会の到来を迎え、高
齢者の生きがいと健康づくりが
重要な課題となっております。町
ではこれまで、皆さまが老後を
安心して暮らせる社会を目指し、
老人保健施設、特別養護老人ホー
ム、デイサービスセンター、介
護保険といった施設・制度の整
備を図って参りました。今後も
高齢者の方々の健康や交流等を
促進し、いつまでも安心して暮
らすことのできる体制づくりに
取り組んで参ります。さらに、
心身に障害のある方々に対する
支援、また、子どもたちが健や
かに育って生み育てられる環境
を安心して生み育てられる環境
づくりを進めるため、私立なか
の保育園を誘致し、休日保育の
実施等の体制整備を図り、町民
の皆さまが、いつでも安心して暮
らせる福祉の充実した町づくり
に取り組んで参ります。

環境の保全

住民の大切な命と暮らしを守
り、安全で快適な生活環境を
整備していくことが、行政の最
も大切な課題・仕事です。
防災・防犯・交通事故防止は
もちろんのこと、資源ゴミの回
収や生ゴミの自家処理等を一層
進めて、資源循環型社会の構築

を推進していくとともに、阿賀
野川・小阿賀野川を含む緑豊か
な自然環境を守り、生活と産業と
自然のバランスのとれた環境整
備を進めていく必要があります。

市町村合併

当町は県都・新潟市に隣接し、
交通網や情報通信手段の発達、経
済活動の広域化に伴い、通勤通
学・産業経済・教育・文化・医
療・福祉・ショッピングといっ
た住民の日常生活圏は、市町村
の区域を越えてますます拡大し
ています。日本海側最大の都
市・新潟市は、環日本海のみな
らず、世界に開かれた玄関口と
して、物流、研究開発、国際交
流の拠点都市としての重要な役
割を担っております。また、今
年はワールドカップサッカーが
新潟市で開催され、ますます飛
躍・発展が期待されております。

ところで、今日、国も地方も財
政事情は大変厳しい状況の中、
今後において、今の市町村が単
独で現状の行政サービス・業務
を維持していくことは非常に困
難な状況が訪れると言われてい
ます。また、地方の時代と言われ
る現在、市町村間の大競争時代を
迎えることが十分予測されます。
これらの困難や厳しい状況を
克服するため、全国各地で市町
村合併が盛んに議論されていま
す。これからの新しい時代を乗

り切り、住民の皆さまの幸せ、
サービスの維持・向上を図るた
めには、市町村合併は避けて通
れないものと考えております。
今後、新潟市を中心とした周
辺市町村が「小異を捨て大同に
つく」気概で新しいまちづくり
を進め、日本海側唯一の都市と
して、世界に羽ばたく政令指定
都市新潟市の実現のため、力を
合わせていくことが、地域の発
展、住民の生活の向上につな
がるものと考えております。

当町でも、昨年7月、合併問
題調査委員会の答申を受け、11
月には新潟市・亀田町・横越町
合併問題協議会を設立し、合併
への協議を始めたところであり
ます。ただ編入合併されるので
はなく、将来を展望したまちづ
くりを、町民の皆さまと議論を
重ねながら進めて参りたいと考
えております。

現在、横越町は自然と暮らし
が調和した緑豊かな田園都市と
して躍進を続けていますが、今
後も、町民の皆さまと更なる英
知と努力を結集し、ご理解とご
協力を頂きながら、21世紀にお
ける皆さまの幸せ、「緑豊かな
いきいきとした町よこし」の
創造のため、魅力的な安心して
暮らせるまちづくりを一層推進
して参ります。
本年もどうぞよろしくお願
い申し上げます。

今年 は午 年

うまどし



人と馬との 長いつきあい

馬と人間とは、長いつきあい
があります。馬が最初に家畜化
されたのは、今から五千年ほど
前の中央アジアでのこと。以来、
人や荷物を運んだり、物をひっ
ぱったり、農耕を助けたり、戦
場で働いたり、様々な場面で
大きな役割を果たしてきました
。その国や地域に大昔からい
る馬を「在来馬」と呼びますが、
日本では現在、北海道、長野、

宮崎、沖縄などに計八種類がい
ます。これらの馬の祖先が、い
つころ、どういうルートで日本
列島に渡ってきたのか
は、まだはつきりしな
いながらも、古墳時代
の遺跡からは、馬の埴
輪も出土しており、馬
がすでに家畜のように
利用されていたよう
です。

「走る芸術」 「馬の耳に念仏」

馬と聞くと真っ先に競馬を連
想される方も多いと思います。
馬同士を走り競わせる行事は、
走馬、競馬などといって、奈良
時代から行われていました。特
に端午の節句（5月5日）の競
馬は恒例で、ときの天皇が臨観
したとの記録が残っています。

現代では、競馬といえばサラ
ブレッド。より速く走るよう
に、品種改良を重ねてつくりあ
げられた馬です。広い胸幅、よ
く発達した後肢、四百キロを超
す体を支える細い脚。たてがみ
をなびかせて走る姿は、「走る
芸術品」といわれるだけあって、
ほれぼれとする美しさです。
一方で「馬の耳に念仏」「馬
耳東風」と、無反応、役立たず
の代表のようにいわれる馬の

耳。私たちが何気なく使ってし
まう諺ですが、これは誤解と
考えてよさそうです。
馬の耳は、前方にある物の距
離を測るなど、優れた機能を
もっています。「馬の耳に念仏」
は、悠然とした馬の姿から連想
されたものなのでしょうが、馬
にとつては迷惑な話ですね。

馬は、人間の願いごとにも関
係があります。そう、絵馬です。
その昔、神に祈願してかなえら
れたとき、神馬とするように馬
を献納しました。しかし、貧し
い民は馬を納めることができな
いので、代わりに馬の絵を描い
たり、馬の形に作った木片を献

じたりしました。それが絵馬の
始まりだといわれています。
午年の今年もまた、神社には
たくさん絵馬が献納されるこ
とになります。

「はたちの献血」キャンペーン

新たに成人式を迎える「はた
ち」の若者を中心として広く各
層に対し、成分献血、400ml
献血への理解と協力を求めるこ
とにより、冬季における献血者
と安全な血液の確保の推進を目
的に、1・2月に全国で「はた
ちの献血」キャンペーンを行
います。

現在、血友病に使われている
血液凝固第Ⅷ因子製剤のうち、

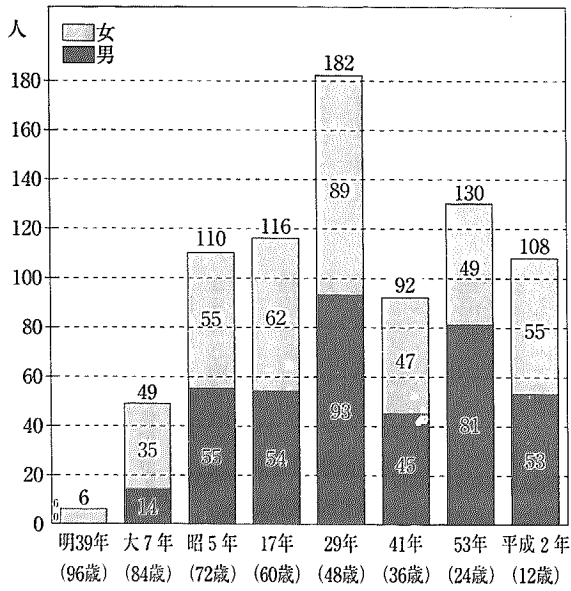
とでしよう。一年を健康に、無事
に過ごせますように、そして世
界に平和が訪れますようにと、
心から願わずにいられません。

一部の輸入製剤について供給不
足が生じています。この輸入製
剤の不足分を補うため、その原
料となる血しょうを効率的に確
保できる成分献血へのご協力も
お願いいたします。血しょう成分の
みを採血する成分献血では、全
血献血に比べて、赤血球を体
にお返しするため、体への負担が
軽くて済み、より多くの血しよ
う成分（400ml献血に比べて
約1・9倍）を献血することが
できます。

県内では、献血バスが各市町
村で巡回しているほか、献血
ルームで毎日受付を行っていま
すので、皆さんのご協力をお願
いします。

町の午年生まれの人口

(平成13年12月7日現在)



- 東堀献血ルーム
新潟市東堀通7-1016-1
東堀パーク600 2階
☎0120-400389
- 献血ルームばんだい
新潟市万代1-3-1
万代シネモールビル 2階
☎0120-869950
- 献血会場案内 ☎0120-788224